

JIA 長野県クラブ 42

社団法人 日本建築家協会

2000. 5. 1



◆長野県学生卒業設計コンクール2000審査会(長野市)



▼第8回文化講演会(長野市) テーマ「つなぐかたち」



◀講師 建築家 平倉直子氏



わかりやすい情報発信の大切さ

副会長 高橋重徳

建築需要の冷え込みばかりが目につくが、設計行為を取り巻く状況はいま静かにトータルに厳しさを増していると言って良い。法的制約も強化されつつあるし、クライアントのニーズはより広範囲に充実した多様化・高度化を指向しており、私たちは今後各々の立場における社会への関わりをベースにしたソフト面での柔軟な対応がより強く求められることになるものと思われる。

私たちは最近の社会状況のなかで、「住宅」もっとデリケートに言えば「家づくり」に対する考え方が大きく変わりつつあることに気付く。バブルが終わって、「価値観の再構築を求める姿勢」が表面化して本当に大切なことは何かということが初めて意識化されているのかもしれない。このことは建築需要の低迷とは裏腹に1997年頃から爆発的に売れた「家づくり」本の人気に表れていると見ることができる。「家づくり」に関心が高まったこと自体は大歓迎だが、これらの本の多くは作家やジャーナリスト、エッセイストの手によるもので建築家の著したものではない。またこれらの本の内容から、「建築家独特のエゴ」「建築家の本は難解すぎる」「建築や家族論など個別の専門家はいても総合的につなぎ結びつけて

語る人がいない」などの批判が見えてくる。言われてみれば思い当たる節も多いのではないだろうか。こうした本が売れるのはその内容が読者と同一視線でわかりやすいからである。建築家の発する言葉は社会から理解されず受入れられないのだ。私たちはこうした社会的シグナルを謙虚に受け止め素直に反省する必要がある。

昨年末に発刊した「愛と情熱の家づくり」の本はこうした観点から必要な行動の第一歩であった。今後さらに知恵と工夫を加えて、家づくりの準備をしつつある読者を含めた社会に対して良質な情報をよりわかりやすく積極的に発信する機会と努力が重要であろう。私たちはこれまでの自己本位な難しい情報発信のやり方や内容を反省し、クライアント本位のわかりやすい情報発信にむけて自らの意識改革をはかるところから始めなければ、社会との接点すら持ち得なくなるのではないかと考えてしまう。「わかりやすさ」を前面に出していくことによって社会と建築家の間にあった大きなギャップを埋めることが可能になり、生活環境の創造と建築文化の発展に寄与することを基本とした建築家の職能が認識されるのだと思う今日この頃である。



「つなぐかたち」を聞いて

片倉隆幸
片倉隆幸建築研究室

第8回文化講演会は3月2日、長野市のメルパルクN AGANOにて平倉直子氏をお招きして開催された。

建築史家の鈴木博之氏の「常盤台の住まい」は既存家屋への増築である。「5.4m×5.4mが人の集まるのに良いスケール」という同氏のヒントから間口5.4mにこだわり、日の当たる場所で食事がとれることや空気の流れを考えてスリットの位置が決まったようだ。執拗にこだわったスチールのマリオンのプロポーションは気持ちの良い空間関係を住まいの内と外につくりだしている。既存建築との関係がよくわからなかったのは少々残念だった。

氏は住宅という私的で小さな建築から人々の要求に重なってその時代の特徴が見えてくると言う。「都賀の住まい」は介護を必要とするこれからの高齢者問題をテーマにしている。お父様の間を敷地の奥でなく家族のプライバシーを守りながら外部の手を借りやすい場所にして地域や専門家とのネットワークも考えている。また道路から直接室内へ移動する斜路の提案。お父様の間から洗面、トイレ越しに浴槽への裏動線をつくる。また窓をあけ腰をおろしてぬれ縁に出られるレベル差は、単にバリアフリーにとどまらず、社会に開かれていて気持ち良い。確かに一つの住宅から様々な社会の問題が見える。

閑静な住宅地に位置する「富ヶ谷の住まい」は敷地一杯を視野に収め、心地好い居場所や環境を考えている。四分割したスペースの一つは18畳(5.4m×5.4m)にこだわり、先の二つの住まいと同様の空間の単位となっている。一つの住まいの余白がまちの余白と連続していけば良いという氏の願いが深く込められている。

一連の作品の鉄骨とガラスや木の納まりは見事でその美しい空間に魅了された。氏の言いたかったのは、あくまでも「つなぐかたち…時をつなぎ空間をつなぎ暮らしをつなぐ」ことであり、決して建築そのものの生々しい形態の話ではない。私から見るとあまり魅力的でない人工的とも思える材料を使いながらもやわらかい空間を創造していく氏の建築は大変刺激的で、固定した手法や形態にとどまらない豊かな表現が見事だと思った。そこに都市に生きる氏のゆれ動く感性を見る。いつもみずみずしい建築的な思考はますますの可能性を秘めていて魅力を感じる。20世紀は便利さばかり求めて大切なものを失ってきたように思う。いま私たち建築家が「つなぐ役割」は大きい。氏の訴えたかったのは、素直に人や家やまちが関係していくことだと感じた。



JIAリフレッシュセミナーに参加して

新井 優
新井建築工房+設計同人NEXT

3月12日～14日に熱海リフレッシュセンターで開催されたJIAリフレッシュセミナーに参加してきました。飯田を出発するときから道中はずっと雪降り富士山は雲に隠れ、箱根では60回ローンで手に入れた新車に早くも落石を頂き散々な初日であったことは余談です。

初日は村尾会長から新しい設計者選定方式の提言や建築界における変革の時代の始まりを指摘する話を聞いた。

続くセミナーでは濱田信義氏による『法改正に従う性能規定』。性能とは数字で表すものであることや、基準法38条が廃止されることなどが印象に残った。

2日目のセミナーは今川憲英氏による『建築構造家と建築家のコラボレーション』と馬場璋造氏による『生き残る建築家とは』。

今川氏はTIS&パートナーズを主宰する現代を代表する構造家の一人。平倉直子氏の住宅も彼の作品で、当クラブの伊藤構造計画工房伊藤正明氏の師でもある。構造家は建築家のイメージを具現化し、地球上に存在させることを行ってきた。これまではより高く、より広くを目的として来たが21世紀は素材を中心にデザインを展開することがテーマになるだろう。仕上材が構造材の仲間入りし、石、練瓦、木、鉄、コンクリート、科学素材等がコラボレートされた空間を形成していく。建築家の想いを構造家が身近な工法で実現させるアイデアを出すことが大切である。自邸で挑戦した型枠と足場が不要となる自立する鉄筋トラス構造。様々な素材と工法を分かりやすく関係づけた空間認識図と構造デザイン関数の説明は、私たちが構造家とコラボレートすることで未知な空間に到達できるのではないかと希望を抱かせてくれた。当クラブでお招きしてもっと詳しい話を聞きたいものである。

馬場氏は、生き残る建築家像について具体的なテーマを掲げ提言された。社会的建築ニーズの変化への対応、各種コンサルとの対応、設計者の選定方法、CAD時代のデータの活かし方、住宅への取り組み等々多岐に渡るテーマは鋭いものがあつた。その後のグループディスカッションでは活発な意見交換が行われた。

今回のセミナーはJIA本部の教育研修委員会全員の参加もあり、夕食後の交流も各地の建築家同士で楽しい一時となった。椎名英三氏は高名な立場となっても真摯な姿勢を忘れない人柄で強い印象を受けた。久しぶりに明日への元気を戴いた3日間でもあつた。



美の秩序を求めて

小松 蒼一
小松一級建築士事務所

建物誕生の根底には、美を求める精神活動が息づいている。豊かな建物の想定、即ち色調、形質、プロポーション、質量、空間等を美的観点から想定できる人でなければ良い設計はできない。回りの景観と一体となって納まることができる建物こそが解答であり作品である。また、四季の変化の中で、夏と冬において調和がとれていれば、春と秋は当然調和がとれるものだ。もう一つ大切なのが空の存在である。一日の変化、四季の変化の他、暖かい空、冷たい空、重い空、軽い空とその変化は激しい。また空には実に豊かで様々な色調がある。

私は40年以上油絵を描いている。感性を磨くには良いと思って始めたが、描くことが好きでたまらなかった事も事実だ。私は風景画の制作が多い。私の車は移動アトリエでもある。モチーフ探しには時間をかける。テーマとスタンディングポイントが決まれば急いでスケッチをとり、本格的に制作を開始する。わくわくする一瞬だ。油壺に溶き油を入れ、パレットにコバルト、バーミリオン、カドミウムイエローの三色を出し、多めの油で混色し細めの筆で下絵を描く。思考錯誤が繰り返され構図が固まっていくが、未だ全て仮線の中である。画面は正面透視法か斜角法か又介線法でテーマに合わせてフリーハンドで描く。建物を描く時はパースの作図法は参考になる。森や林は一つの塊としてとらえ、一本一本に生命が与えられるように描く。自然は複雑で大きい。描ける部分はほんの一部分に過ぎない。しかし、その部分から外の部分を想像できるようにできたら良いと思う。画面は奥から近景へと描かれる。空も良いが遠い山肌も変化が多く表情豊かで面白い。主題となるテーマはモチーフをしっかりと描く。季節やロケーション等を省略したり、デフォルメしたりすると風景画から遠ざかるので忠実な表現を心掛けている。モチーフを描く時は我を忘れ、対象とパレットとキャンバスの三点を筆やナイフが走り続ける。完成した作品を家に持ち帰り、これを肴に一杯飲むのも良い。次なる作品への反省として欠かせない。

さて、美の基準はどこにも存在する。絵画に関しては例えばモノトーン的美、補色対比的美、ツートンカラーの美、三原色調和の美、デフォルメの美等々の美の秩序が存在する。また、見る方にも自然な審美感があって、美しいものを感じることができるようになっている。建築美の追及も絵画と同様果てしない。いずれにしても大変な世界に身を置いていることをひしひしと感じている。



思いやりの介護住宅

赤塩 政広
本久(株)

4月1日より介護保険制度がスタートしました。全国の中でも超高齢化が進行している長野県にあって、これから益々在宅での介護のウエイトが高まってくるものと思われま。在宅介護となると、住宅のバリアフリーはもとより、介護の手助けとなる介護用リフト・ベッドそしてホームエレベーターも重要な介護機器として整備していかなければならないと思います。介護者の願い・高齢者への配慮を優先した思いやりのある機器供給を、賛助会員として目指していきたいと思っています。また同日より住宅品質確保促進法が施行されていますが、良質な住宅を提供していかなければならないのは当然として、住む人々のニーズに対応できる資材を正会員の皆様とともに考えていきたいと思っています。長野オリンピック以降、建設業界は大変厳しい状況にはありますが、皆で良くしようとする気力を持って努力すれば必ず光が見えてくると思います。

これからも、賛助会員の一人としてできる事に全力を尽くしていきたいと思っています。



NOと言える建築家

平山 武久
長野ピーエス(株)

建築のなかのあらゆる空間の温度、湿度、空気の状態を私たちは室内気候と呼んでいます。

建築家がイメージして施主と共に作りあげていく建築。その美しい空間デザインや室内気候が住まい方にも大きく影響を及ぼすことを考える時、建築家とはほんとうに魅力ある羨ましい職業だと常々感じています。

ところで、流行なのかデザイン上の表現なのかかわかりませんが、最近は大きなガラス開口を用いた建築が多く見られます。しかしこうした例にはいくつかの問題がひそんでいるようで、例えばその開口面積の大きさのために熱負荷が大きく、春先の3月頃から早くも冷房が必要になったり、或いは逆に秋口の10月頃から既に暖房が必要になったりするということもしばしばあるというわけです。このような事態が施主の要望を優先したために起きてしまったとしたらとても残念なことだと思います。建築家としての倫理を貫きあえて施主(内容によっては相手が施工者の場合もある)に対してNOと言える建築家であって欲しいと思います。

クラブインサイド

新旧正副会長引継会 出澤 潔

3月2日開催。2月の選定議員会で次期正副会長が選定されたことを受けて、期をまたぐことによる会運営の遅滞を除くため新旧正副会長・監査・賛助会正副会長出席のもとに開かれた。新幹事及び委員長人事・次期事業計画・予算案を新執行部を中心にまとめ、4月の新旧合同幹事会に提案する実質的な運営方針を承認した。

第8回文化講演会 片倉 隆幸

3月2日。メルパルク長野にて開催。講師は昨年総会の妹島和世氏に続き連続して女性の平倉直子氏。最近の女性建築家たちの活躍は素晴らしい。会場は女性建築士・学生たちに交じって一般の聴衆で埋め尽くされた。懇親会に続く二次会はワインパーティとなったが、講師を囲んで話しが深まり大変な盛り上がりとなった。

新正副会長・委員長・賛助会長会 松下 重雄

3月31日、新正副会長会開催。役員改選に伴う新年度のクラブ運営について協議。4月5日、委員長と賛助会長を交えての会議開催。役員構成・委員会担当・事業計画(案)・予算(案)について協議。4月17日開催予定の新旧合同幹事会に計る。クラブの一層の充実を目指しての新しい体制づくりを真剣且つ和やかに語った。

2000年度通常総会へのご案内 関 邦則

今年の通常総会は5月16日(火)に開催。会場は長野市の山王共済会館。会長はじめ役員交替期でもありますのでお繰り合せの上是非ご出席ください。記念講演会は武蔵工業大学教授で環境問題を専門に活躍している岩村和夫氏に建築と環境をテーマに語っていただきます。

クラブアウトサイド

第11回支部保存問題委員会 依田 政司

2月4日開催。2月26～27日の「JIA保存問題埼玉大会」について埼玉地域会の実行委員である浅川・増谷氏を交えてスケジュール・役割分担等の確認を行った。その後大会は80余名の参加を得て盛会裡に終了した。その他に日本工業倶楽部会館視察会、栃木県庁舎建替・一連の同潤会アパート建替等について連絡協議を行った。

第4回支部選挙管理委員会 須田 考雄

2月10日開催。第2回告示(1月15日)の補欠選挙(2月8日締切)による立候補者の資格審査を行ったところ、候補者・推薦者とも資格を充足し尚且つ定員一杯の立候補者であったので、全員を無投票当選とした。第3回告示(Bulletin 3月15日発行号)で公表する。

第10回支部会員委員会 久保田 三代

2月19日水戸市で開催。入退会審査と企業定年による退会者の引留め策(65才以上で現役引退者は会費半額となるのだが)等が議題。好文亭(偕楽園)と県庁を見学後、茨城県クラブのメンバーと意見交換を行なった。

第4回地域サミット 出澤 潔

2月27日開催。深谷市での保存問題埼玉大会に併催され、JIAの抱える諸問題についての説明があり、地域会での更なる論議が要請された。公益法人問題、継続教育問題、アーキテツガーデンに対する地域会の対応、設計者選定方式の講習会開催等、問題が山積している。

第4回支部役員会 関 邦則

3月9日開催。アーキテツガーデン2000企画案等の報告あり。JIA25年賞は13件も推薦があり今後の選考方法を検討。決算方針承認。公益法人問題について地域会での協議要請。入札に代わる設計者選定方式の提言として設計入札問題WGによるQBS方式の説明あり。

第21・22回地域組織整備委員会 出澤 潔

第21回は選定議員会と重なり欠席。第22回は3月9日開催。本年度委員会活動報告(案)の検討を行い、来期の委員会組織のあり方について討議した。今期で本委員会は一応の役割が終ることとなり、今後の地域会活性化のための新しい仕組みに期待することとなる。

第1回支部業務委員会 関 邦則

4月4日開催。本部業務委員会からの報告では工事監理委託の基本的な考え方・QBS・建築家継続教育などについて。工事監理とプロポーザルの実態調査について具体的に検討開始したが消極的な意見もあり。野尻委員長が定年退職で退会するので川窪氏が新委員長になる。

—新入会員紹介—

正会員

東濱 四雄 (株)東浜設計 (小諸市)

市川 英一 (株)設計室コム (長野市)



編集人 関 邦則
発行人 出澤 潔
発行所 JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科
426-1
長野県建築士会館内
TEL 026 (232) 3897
FAX 026 (232) 5303
作成 新建新聞社